

しおのう 塩納遺跡現地説明会資料

岡山市教育委員会

日時：平成 23 年 6 月 11 日(土)

場所：岡山市東区瀬戸町塩納

はじめに

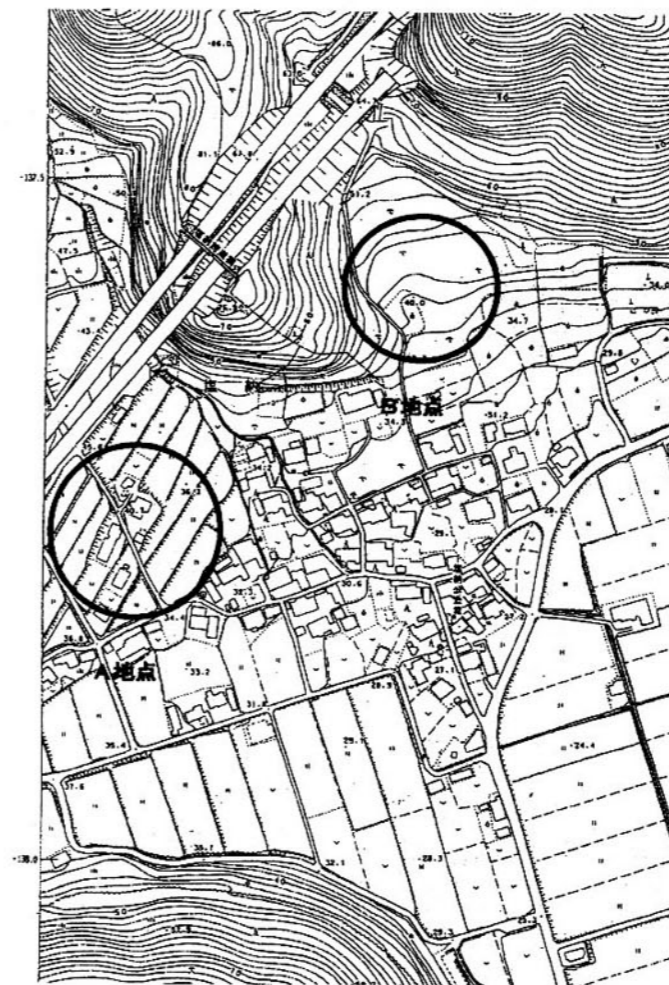
岡山市教育委員会は、美作岡山道路建設に伴い、昨年 8 月より A 地点、同年 12 月より B 地点と、2ヶ所に分けて発掘調査を行ってきました。この発掘調査は、事前に建設予定地内の試掘調査を行い、調査対象地を確定して行っています。美作岡山道路の建設は、北に向けて行われるため、そのたびごとに、新たな試掘調査により調査対象地を確定するため、今後も発掘調査対象地が広がることが予想されます。

塩納遺跡は、岡山市東区瀬戸町にある大森山(標高 350 m)南山裾の、南へ下がる緩やかな斜面の上に営まれた遺跡で、縄文時代・弥生時代・古墳時代・古代・中世と各時代の遺構が複合しています。遺跡の近隣には、千種小学校南西の縄文時代晩期の櫛がみつかった「鍛冶屋 D 遺跡」や、塩納と鍛冶屋の境に位置し白鳳時代に創建された「吉岡廃寺」、古代の役所跡と考えられている「塩納大日遺跡」戦国時代の松田氏の東備方面の拠点であった「妙見山城跡」などの多くの遺跡が認められます。南東には鎌倉時代に東大寺再建の瓦を製造したことで著名な国指定史跡「万富東大寺瓦窯跡」もあり、塩納成遺跡を含む岡山市東区瀬戸町一帯は、縄文時代から現代まで連綿と人々の営みが行われ、栄えていたことをうかがい知ることができます。



塩納遺跡の位置と周辺部の遺跡

(1/20000)



A地点・B調査地点の位置(1/5000)

塩納遺跡 B 地点

調査の概要

塩納遺跡 B 地点は、標高約 241m の大森山から南東方向に舌状に伸びる丘陵が分岐して形成した谷頭から盆地性の平野部への傾斜変換点、標高約 36m の緩斜面にあります。これまでに三つのエリアで発掘調査を行った結果、弥生時代から近世にわたる遺構がみつけられました。次に調査区ごとにみてみましょう。

【道路区】

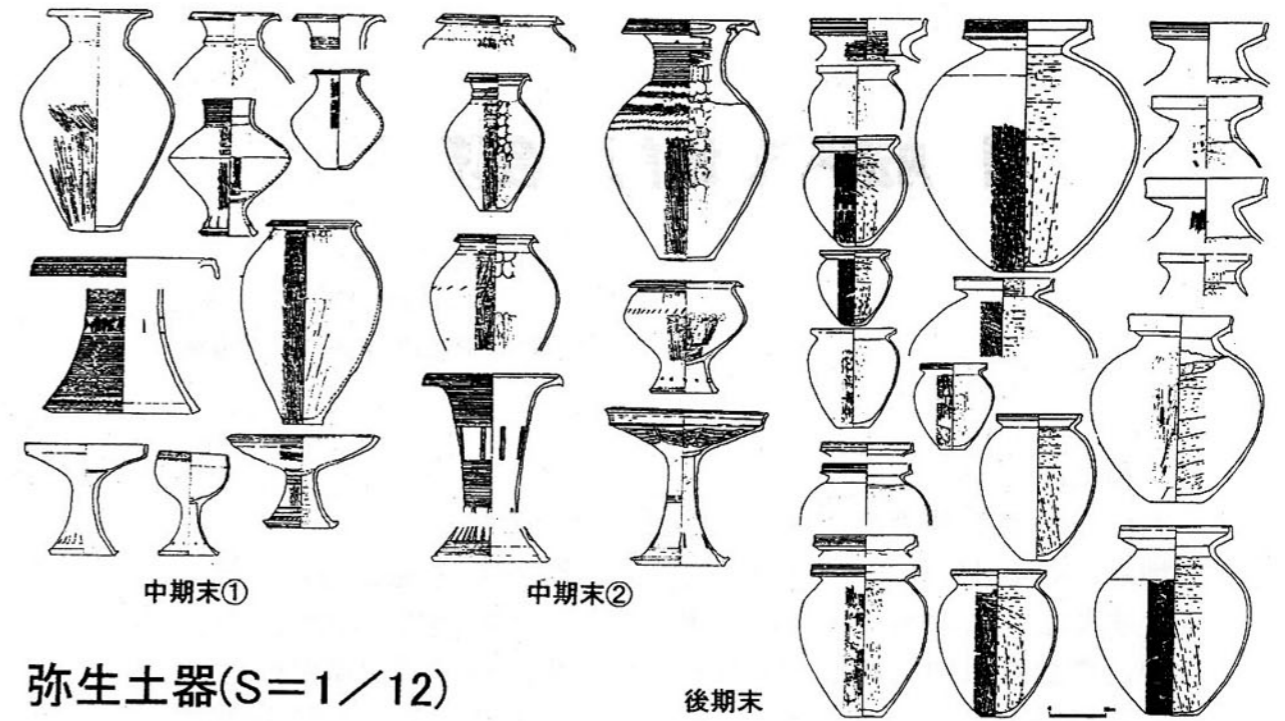
道路区は、もともと谷奥の調査区にあたります。急斜面の丘陵部には、遺構はありませんでしたが、傾斜変換点では、谷筋にそって土坑、石積遺構、溜池状遺構等がみつけられました。これらは17世紀から18世紀を中心とする集落の様子を示しているようです。

【I区】

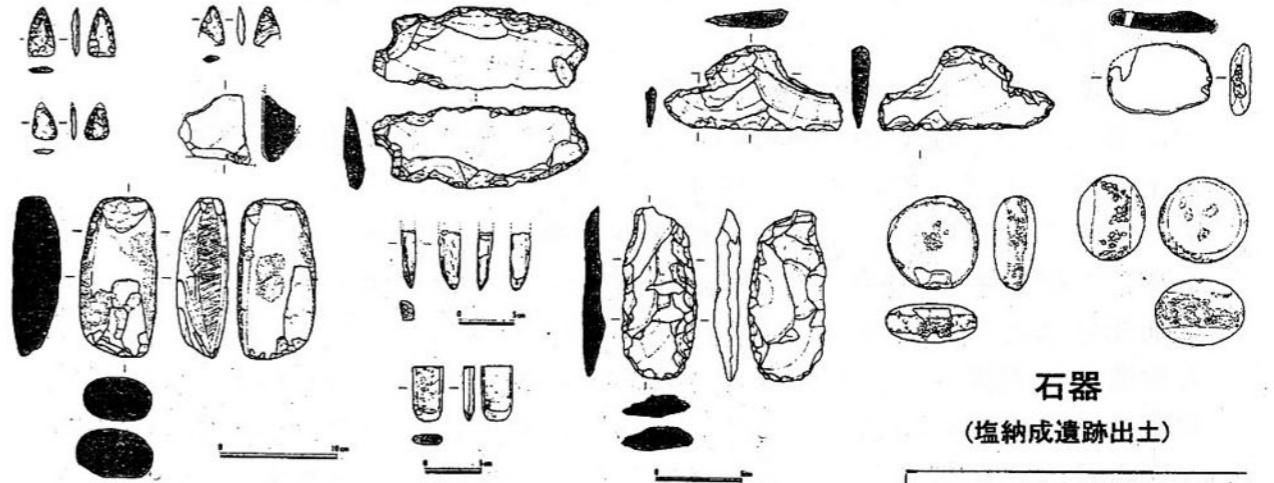
I区では、近世の土坑、溜池状遺構のほかに、近世墓群がみつけられました。これは、中世段階も墓域であった場所を整地した可能性があります。また、古代の土坑、溝、ピット群もみつけられました。特に巨大な露岩を取り囲むように並ぶピットや土坑は、露岩とのつながりを感じさせます。さらに、溝内からは、多量の炭とともに、移動式竈、土師器鍋、須恵器の杯、甕等が多く出土しました。また、底には、直径40cm前後の布掘りのピットが1間半の間隔で認められました。ここは東に熊山を仰ぐ位置にあります。

【II - 中区】

II - 中区は、今回の発掘調査区の中でもっとも低い地点にあります。みつかった遺構は、近世(17世紀~18世紀)の土坑群・ピット群、中世(13世紀)の溝、土坑、弥生時代後期終末の土坑・ピット群・溝、弥生時代中期の土坑・ピット群・溝です。ほとんどの溝が旧地形に沿った形で流れているようです。特に注目されるのは、弥生時代後期終末の土坑と中期後半から末頃の溝です。この遺構からは、完形品やそれに近い弥生土器、サヌカイト製の石器などが多量にみつけられました。弥生時代中期の溝は、下流部で二股に分かれています。この溝は、やや東の高台にある居住域を区画するための大溝であったと考えられます。しかし、たび重なる大森山からの鉄砲水や雨水によって、長い期間安定的にこの地に住居を構えることができなかつたものと思われる。



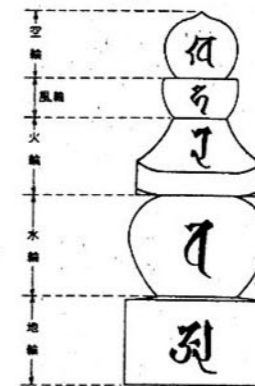
弥生土器(S=1/12)



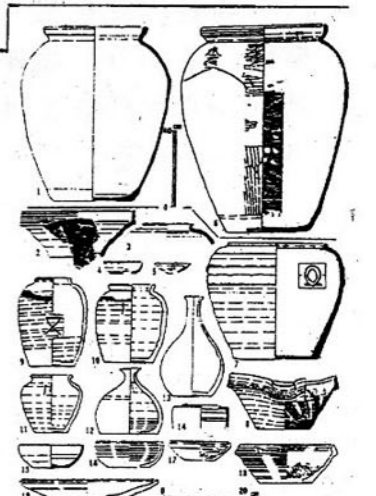
石器
(塩納成遺跡出土)



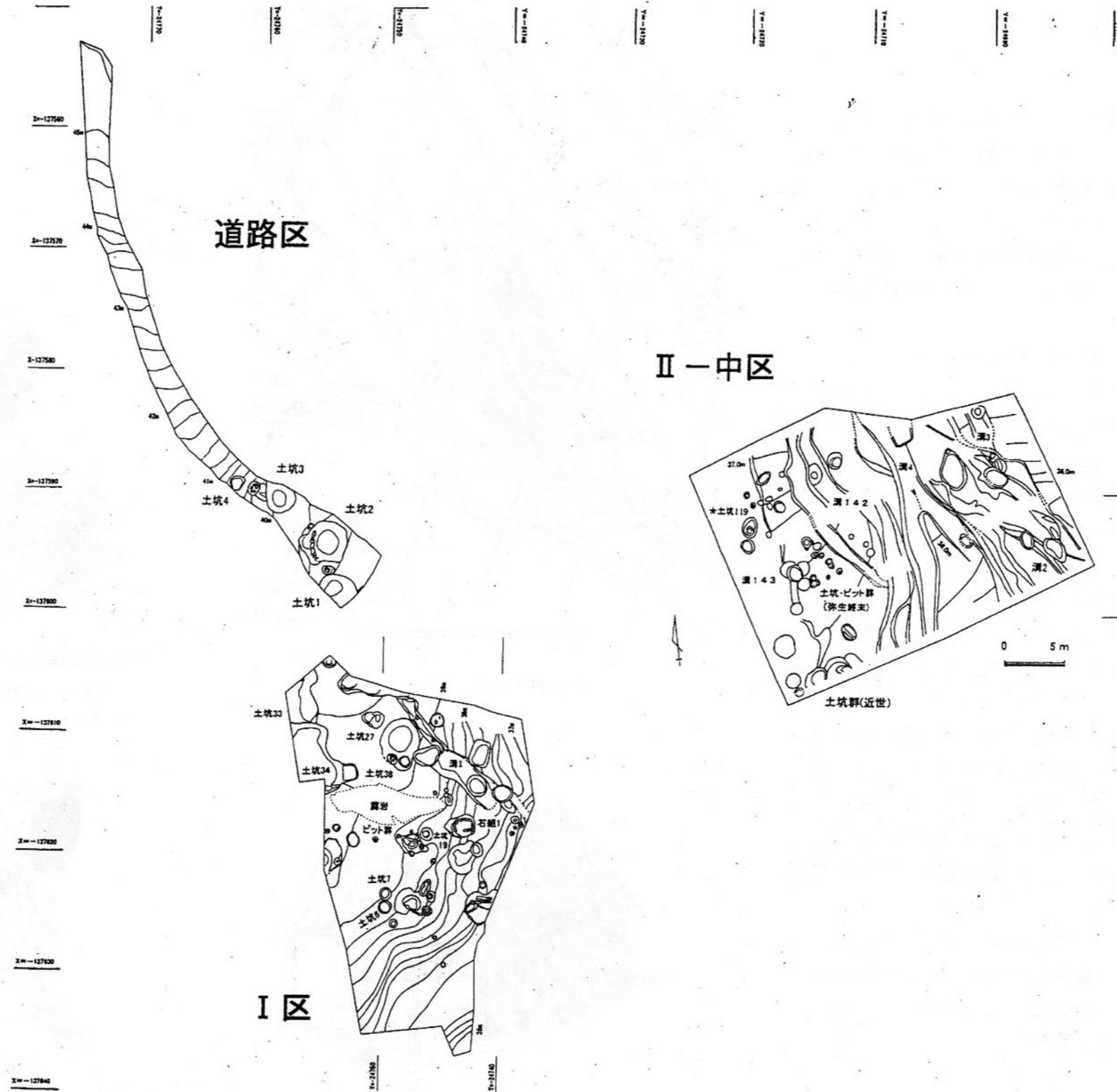
笠塔婆模式図



五輪塔模式図



V期の備前焼



B地点遺構配置図(S=1/400)

引用文献

- 河原 幸1980『吉備の石塔』山陽新聞社
- 杉山一雄ほか2005『遺跡成道跡』岡山県埋蔵文化財発掘調査報告187岡山県教育委員会
- 高橋 隆1988『弥生時代終末期の土器編年』『研究報告』9 岡山県立博物館
- 藤田重司1992『弥生中期の地域性』『吉備の考古学的研究(上)』山陽新聞社
- 岡田忠彦1991『遺跡』考古学ライブラリー80 ニューサイエンス社

発掘調査の概要

<A地点>

この調査地は、塩納遺跡の西端部分に当たり、現在は水田となっていますが、昔は南に下る緩やかな斜面であったと考えられます。この調査地は、昭和50年代の圃場整備によって破壊されているため、遺構の残りはあまりよくありませんでしたが、それでも、主に弥生時代中期（約2,000年前）の住居跡や建物跡、溝などが見つかりました。遺物は弥生土器をはじめとする土器・陶磁器類や、鍬や石斧などの石器が出土しました。

2-4区では、少なくとも2軒の竪穴住居が建っていたと思われます。その他溝や多数の柱穴などが見つかりました。北東にある竪穴住居跡は中央に炉跡と思われる炭の多く入った穴があるなど、この調査の中では一番残りの良い状態でした。西側では直径80cmほどの大きな穴が並び、中には根石や添石として利用されたと思われる大きな石が入ったものがあります。

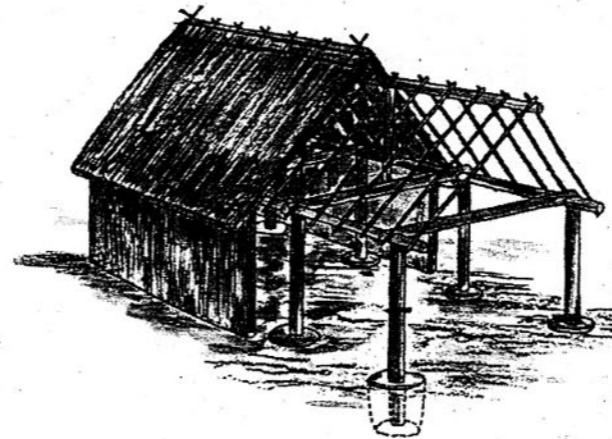
2-5区では、少なくとも2軒の竪穴住居が建っていたと思われます。また調査区の東側には、東西に流れる幅1mほどの溝が2本見つかりました。これらの遺構に切り合ったり隣接したりして、半月状の細い溝や柱穴などが検出されており、かなり遺構が密集しています。

2-4・5区合わせて、検出された弥生時代の竪穴住居跡は4軒ですが、竪穴住居の壁帯溝の一部と思われる半月状の細い溝が何本も見つかっているところから、この地点にはもっと多くの竪穴住居が建てられていたのかもしれませんが、また多数発見された柱穴の中には、等間隔で並ぶものもあり、平地住居や柵などの施設も数多く建っていたと考えられます。

A地点全体では、主に2-4・5区を含む東側から弥生時代中期の竪穴住居、柱穴や溝などの遺構が集中して見つかりました。2000年ほど前にこの地に住み始めた人々は、南に開けたこのあたりを中心に集落を営んでいたと考えられます。



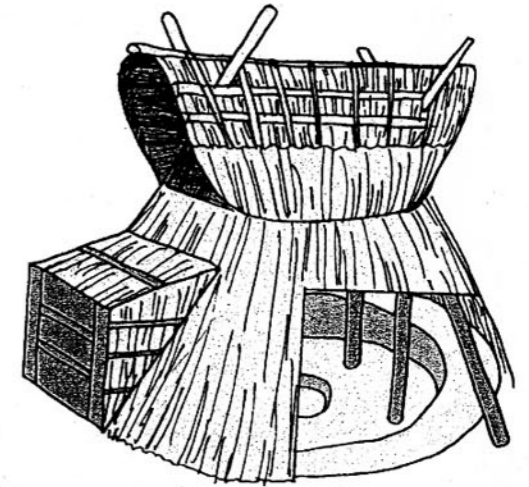
A地点の場所(1/2000)



掘立柱建物の想像図1

(出典「百間川遺跡群—よみがえる原始・古代のムラ—」)

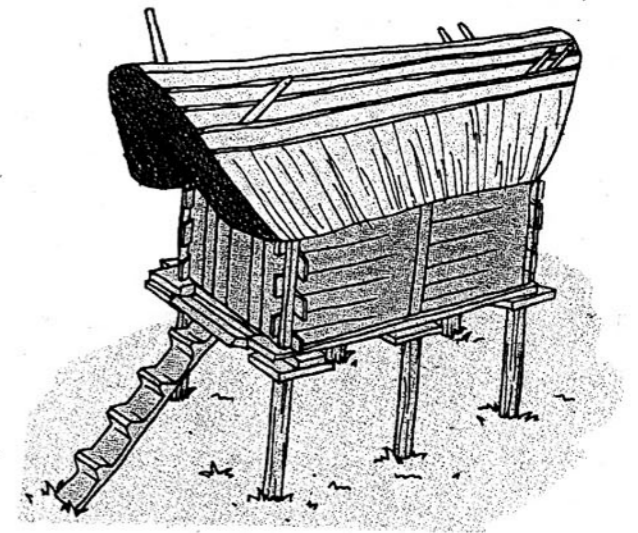
建設省岡山河川工事事務所 岡山県古代吉備文化財センター 1989)



竪穴住居の想像図

(出典「百間川の遺跡探検 2001」)

国土交通省岡山河川工事事務所 岡山古代吉備文化財センター 2001)



掘立柱建物の想像図2

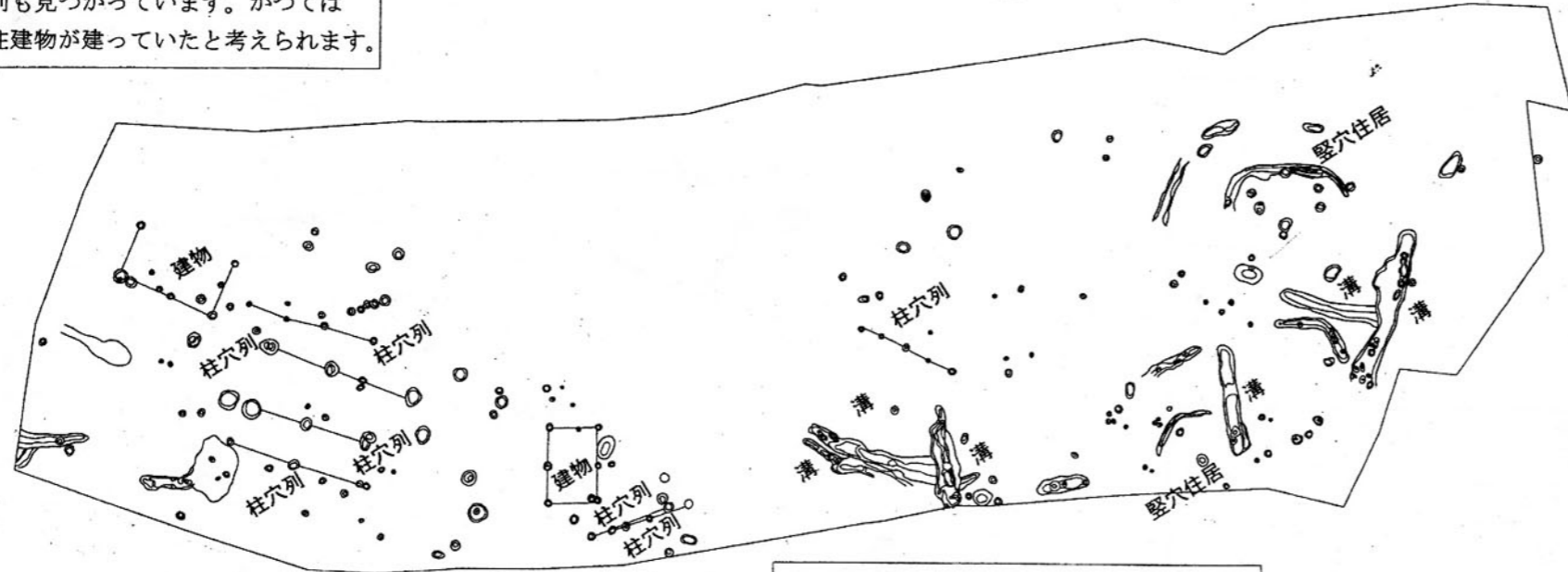
(出典「百間川の遺跡探検 2001」)

国土交通省岡山河川工事事務所 岡山古代吉備文化財センター 2001)

一定の間隔で柱穴が並んでいる柱穴列が何列も見つかっています。かつては掘立柱建物が建っていたと考えられます。

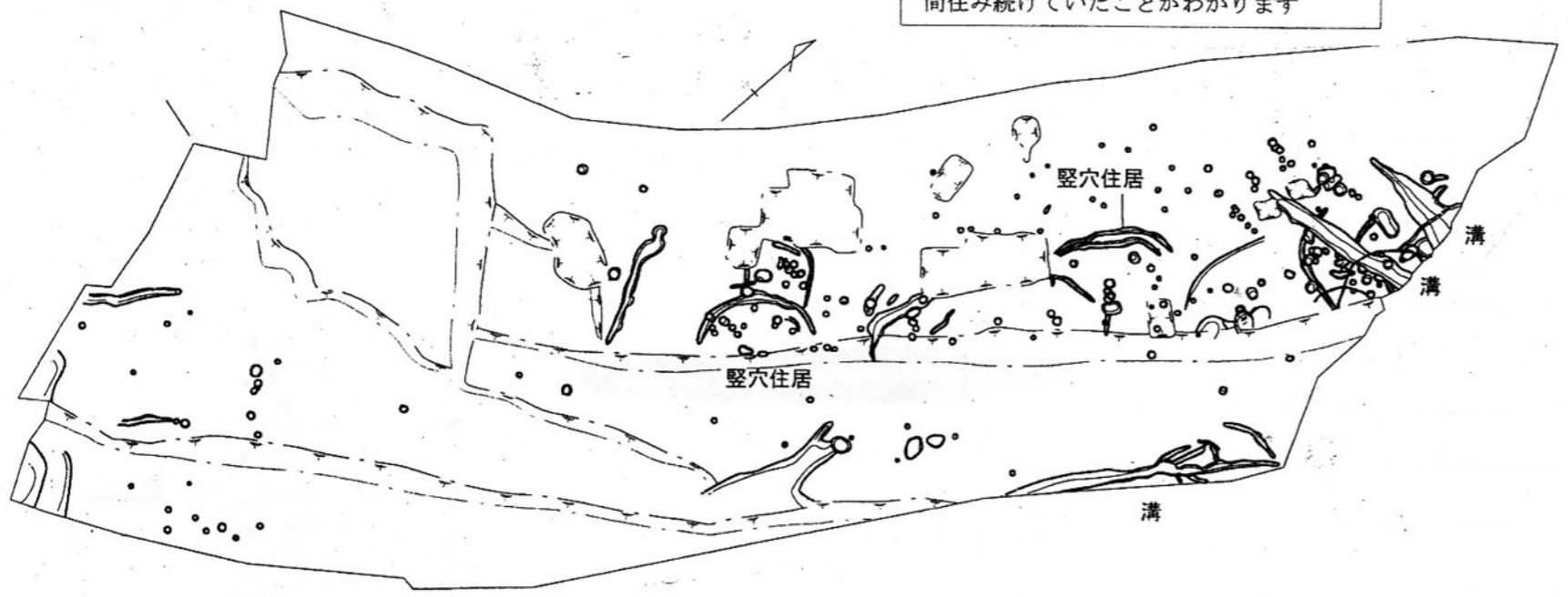
柱穴には様々な深さ、大きさのものがああります。これは建っていた建物の大きさや重さによって柱の大きさが異なっていたためと考えられます。

穴や溝が全くない部分は、広場だったわけではなく水田開発によって土が大きく削り取られている部分です。かつてはこの部分にも溝や建物などがあったと考えられます



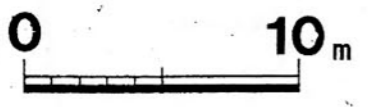
2-4区

竪穴住居は4軒見つかりました。立て替えを行っているものもあり、一定期間住み続けていたことがわかります



約2000年前の集落は、南に開けた緩やかな斜面上に営まれていましたが、水田開発に伴い、斜面は段々にカットされてしまいました。現在見られる段は、水田の跡です。

2-5区



弥生時代中期 (約2000年前)の2-4区・2-5区の様子(1/250)

瀬戸町歴史略年表

時代区分	西暦	主な出来事	瀬戸町周辺の主な遺跡と出来事	主な出土品
旧石器	100万～70万年前	打製石器の使用・火の使用		旧石器
	約3万年前～1.6万年前	ナイフ形石器・尖頭器の利用	※大森山周辺	
縄文	約1.6万年前	土器の使用	※塩納成遺跡	縄文土器
	約6,500年前	貝塚時代の幕開け	彦崎貝塚・沼貝塚	
	約4000年～2,500年前	東日本文化の伝播・九州磨研土器の斉一化	※鍛冶屋遺跡・中津貝塚・南方前池遺跡	
弥生	約2,500前	水稻農耕文化複合の伝播	津島江道遺跡・津島岡大遺跡	弥生土器
		金属器の使用	※塩納成遺跡	
	239年	邪馬台国の女王卑弥呼が登場	※陣場山遺跡群	
古墳	約250年	古墳の築造開始	浦間茶臼山古墳	土師器 須恵器
		大王墓の時代	両宮山古墳※玉井丸山古墳	
		群集墳の盛行	※西久保祇園1号古墳	
白鳳	645年	大化の改新		
	663年	白村江の戦い	※大廻り小廻り山城跡	
		地方寺院の建立	※吉岡廃寺	
	694年	藤原京に遷都		
奈良	710年	平城京に遷都	山陽道の整備	
	741年	国分僧尼寺建立の詔	備前国分寺	
	752年	東大寺大仏の開眼供養	和氣清麻呂の建言で磐梨郡を設置(778) 熊山遺跡の石積遺構	
平安	794年	平安京に遷都		陶磁器
		各地で荘園開発		
	1185年	平氏滅亡		
鎌倉	1192年	源頼朝が鎌倉幕府開府	福岡の市がにぎわう	備前焼
	1195年	東大寺再建供(重源)	※万富東大寺瓦窯跡 吉岡荘	
南北朝	1334年	後醍醐天皇建武新政	坂根城ヶ谷の物部定茂の興亡	
	1338年	足利尊氏が室町幕府開府	妙見山城の松田元成の興亡	
室町	1392年	足利義満南北朝合一		
	1467年	応仁の乱		
戦国	1573年	室町幕府滅亡		
	1600年	関ヶ原の合戦		
江戸	1603年	江戸幕府開府	田原用水の工事(1688～1704)	
	1684年	幸島新田完成		
	1853年	ペリー来航	高瀬舟の往来	
明治	1867年	大政奉還		
	1923年	関東大震災		
昭和	1946年	日本国憲法発布	瀬戸町の誕生(1955年)	
	1995年	阪神・淡路大震災		
平成	2011年	東日本大震災	岡山市と合併(2007年) 塩納遺跡現地説明会	



A地点説明会会場への道順

岡山市埋蔵文化財センターご利用案内

所在地 〒703-8284 岡山市中区網浜 834-1
 TEL:086-270-5066 FAX:086-270-5067
 公開時間 午前9時～午後4時30分
 休館日 日曜日、国民の祝日に関する法律に定める休日、
 年末年始(12月29日～1月3日)
 入館料 無料
 交通案内 岡電バス「網浜中」バス停下車、徒歩5分
 岡山駅から「新岡山港」「主婦南」
 「岡山ふれあいセンター」「倉基南」行き
 URL <http://www.city.okayama.jp/kyouiku/bunkazai/maibun/>
 メールアドレス maibun@city.okayama.jp

